

<草だけで野菜が育つ！改良型:草を使った土作り

>

従来は、草と土をミルフィーユ状に3層ほど積み重ねていましたが、土の上層部に一層だけ入れるようにしました。上にあるほど空気があり、糸状菌が食べる割合が増えるからです。

また、従来は途中数回混ぜながら、約6か月後から作付け開始していましたが、2か月後からでも作付けできるようになりました。その時はまだ草は十分分解していませんが、植えつける野菜の根の上にあるので、野菜に害が出ません。

植付時は、マルチに穴を開け、手を入れて中の草を周囲にずらすことで、底に草のない部分を確保します。そこにタネをまいたり苗を植えたりします。

草が未分解のうちから作付けできるので、収穫後すぐ再度植えることも可能です。栽培中に土は糸状菌によって次第に下の方まで軟らかくなっていきます。

ポイント

●草を乗せる前に、先に、土にカキ殻石灰を混ぜておくと、微量ミネラルが補強でき、竹炭・木炭なども混ぜておくとさらに発酵力が高まります。

※竹や木から1時間で炭が作れる無煙炭化器があります。

「菌ちゃんふぁーむネットショップ」で注文できます。半永久的に使えるので、仲間で1台、購入をお勧めします。

●草は、カヤ、セイタカアワダチソウ、イネ科の雑草など、溶けにくそうなものが好ましい。草刈りして数日放置して乾いたものが良いが、土に仕込む時にジョロ等で散水し枯草を濡らす。乾いた草5キロ/㎡くらい大量に入れます。

●草刈後、そのまま1か月程度露地に放置することで、地面との境に白い糸のようなもの(糸状菌)がついた草を入れるとさらにうまく行きやすい。

●0.02ミリの薄い黒ポリマルチで全体を覆って雨が入らないようにする。またマルチの頂部に雨水が貯まらないように傾斜をつける。

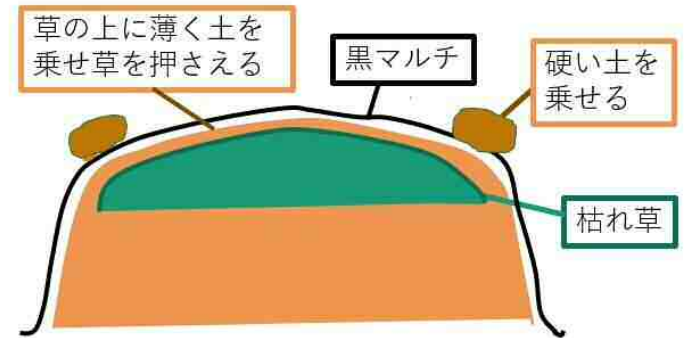
マルチ周囲をマルチ押さえで止めます。マルチ押さえではなく、土でマルチ周囲を埋めた場合は、空気の出入りが少なくなるので、マルチの斜面部を棒で何カ所も挿して通気を確保します。これで糸状菌の働きが活発になります。

●図のように肩の部分に、点々と硬い土などを乗せます。強風対策と、土の過乾燥防止が目的です。乗せた箇所の真下は毛細管現象で水分過剰になりますが、周

辺の土の湿度を保つので糸状菌が働きやすくなります。

●雨が降ったとき、溝の部分に水貯まりができないよう、溝の高さを調整します。

●草のかさが減って、マルチがダブついてくるので、1か月後くらいにマルチを張り直します。



●このような土作りを数年続けると土の排水性が格段に良くなるので、その後はポリマルチは使わなくても済みます。

●5~6月に植える場合は、黒マルチが熱くなりすぎて野菜が障害を受けるので、マルチの上に草を乗せたり、土を薄く乗せてください。

.....

肥料はまったく不要。草だけで野菜は良く育つし、さらに土はふかふかになっていくという画期的方法です。

今、日本では、葉にかけたら根まで枯らす便利な除草剤が、宣伝、安売りされ気軽に使われていますが、この除草剤はガンを作ることがわかって、多くの国で使用禁止になっているんですよ！！！！

また、地球の地表面の生きものたちが減ったことが、CO2増加の40%を占めているという説もあります。草が生えると、草さんは、根を通して土の菌たちにエサをあげて一緒に育つため、次第に土は生きものでいっぱいになっていきます。やがて世界中に広がったら、炭素は昔のように大地の中に戻っていき、大気中のCO2が減り、気象変動も緩やかになっていくでしょう・・・

大切な自然の贈り物である草さんを除草剤で消すのではなく、しっかり育てて活用する人がどんどん増えていったらいいなあ・・・

この取り組みは学校などでも容易に取り組めます。不要なものと思っていた雑草が、土に帰せば、菌ちゃんを育て、菌ちゃんがふかふかの土を作り、とても元気で美味しい野菜に変わり、自分たちの体が変わっていく・・・

雑草と自分は、菌ちゃんを通して一つになる。この地球との一体感を子どもたちが体験したら、地球を愛おしく思うだろうなあ・・・